

キャリア・ログ

～わたしの学びの足あと～



活用の手引き

(教職員用)

【目次】

P 1	「キャリア・ログ」に込めた児童生徒の成長への願い
P 2	活動を記録し蓄積することの必要性
P 2	「キャリア・ログ」の特徴
P 3	「キャリア・ログ」の活用方法
	1 児童生徒に配付するまで
	2 児童生徒の活動
	3 各学年、上級学校への持ち上がり
P 9	活用に係るQ & A

「キャリア・ログ」に込めた児童生徒の成長への願い

学習指導要領（小学校及び中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（同年 4 月告示）、高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）、特別支援学校高等部学習指導要領（平成 31 年 2 月告示））総則において、児童生徒が「学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としてつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」が明示される等、キャリア教育の充実は、近年、更に重要性が高まっています。

また、小学校学習指導要領等の特別活動においては、「学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行う」際に、児童生徒が「活動を記録し蓄積する教材等を活用すること」とされ、児童生徒が活動を記録し蓄積する活動、及び教材の充実が求められています。平成 31 年には、このような教材の例として、文部科学省より「キャリア・パスポート」が示されています。

本県では、学習指導要領に先駆け、児童生徒の活動を記録し蓄積する教材として、平成 20 年度に「わたしのキャリアノート～夢のスケッチブック～」（以下、「私のキャリアノート」とする。）を作成し、キャリア教育の充実に取り組んできました。また、令和 2 年度に「広島県の 15 歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力」を示し、令和 5 年度広島県公立高等学校及び特別支援学校高等部入学者選抜より、入学者選抜制度の改善を行います。

こうしたキャリア教育の充実に係る取組を踏まえ、この度、新たな児童生徒の活動を記録し蓄積する教材として、「キャリア・ログ～わたしの学びの足あと～」（以下、「キャリア・ログ」とする。）を作成しました。「キャリア・ログ」は、9 年間を通じて「広島県の 15 歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力」を育成することができる構成となっており、各学年のシートは、1 年間のあゆみを 1 枚ポートフォリオでコンパクトにまとめることで、振り返りやすい教材となっています。

「ログ」とは、「起こった出来事についての情報などを一定の形式で時系列に記録・蓄積したデータのこと」という意味で、“log” の原義は船の航海記録（日誌）といわれています。本教材が、児童生徒の人生という航海において印象的な場面の記録を留める役割を果たすとともに、時に振り返ることで、自己の成長を感じたり、励まされたり、自分のよさや生き方を考える一助となったりすることを期待しています。



令和 4 年 3 月
広島県教育委員会

活動を記録し蓄積することの必要性

- キャリア教育において、学校での教育活動全体や、家庭、地域での生活や様々な活動を含め、学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うことが必要です。
- 活動の際、振り返って気付いたことや考えたことなどを、児童生徒が記述し、蓄積する、いわゆるポートフォリオのような教材を活用することが有効です。
- このような教材を、次の学年や上級学校へ持ち上がり活用することで、児童生徒が自ら自己の成長を把握したり、多面的・多角的に自己理解を深めたりすることが期待でき、教職員の児童生徒理解が深まります。

「キャリア・ログ」の特徴

1 広島県の「15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力」の育成に焦点化している

「キャリア・ログ」では、自分自身について考える項目を、年度当初と年度末に配することで、定期的に自己について省察する機会を設け、「**自己を認識する力**」の育成に資するようにしています。さらに、学期ごとの振り返り項目を発達段階に応じて自分で選択させることで、「**自分の人生を選択する力**」の育成を図ります。

また、児童生徒が取り組む際、自らの成長についてクラスメイトと語り合う活動を併せて行うことで、「**自己を表現する力**」の育成につながります。



2 1年間を1枚ポートフォリオでコンパクトにまとめることができる

「キャリア・ログ」は、学期ごとの振り返りを踏まえて、次の学期や年度に取り組んでいくというサイクルを「見える化」するための工夫として、「**一目で1年間の自己のあゆみを概観できる**」よう、A3で1枚（又はA4両面）にまとめています。

「キャリア・ログ」を行事の振り返り用紙や学期ごとの個人目標の記入用紙等の学校独自のフォーマットや、賞状や作文、写真等、個人の成長や思い出の資料をまとめる際の「トップページ」（頭紙）とすることで、数年先に振り返る際にはインデックスシートの役割を果たし、自己の成長を見返すことが容易となります。



3 一人1台端末に対応することが可能となっている

児童生徒が持つ一人1台端末等に保存することを可能にし、デジタル版を作成しやすいように、フォーマットを工夫しました。児童生徒がパソコンやタブレット端末等で直接入力するという方法にも対応が可能です。もちろん、紙で配付する場合も含めて、学校独自のアレンジを加えることができます。



「キャリア・ログ」の活用方法

1 児童生徒に配付するまで

①「身に付けておいてほしい力と姿」を学校が事前に記入する

キャリア教育では、自校の児童生徒の現在の様子を踏まえて、「〇〇の場面で〇〇ができるようになる」「〇〇の場面で、〇〇をしている」等の具体化された姿で目標を設定することが重要です。

自校の「学校教育目標」等を踏まえ設定されている、育成したい資質・能力について、当該学年において目指す姿を校内で十分に議論・共有し、具体的な「姿」として年度当初に示すことで、児童生徒と共有しましょう。

また、「社会に開かれた教育課程」をキャリア教育においても実現していくためには、地域や企業と、理念や児童生徒に育成を目指す資質・能力を共有することが重要です。具体的で分かりやすい表現で、自校の目指す児童生徒の「姿」を整理していると、こうした外部との共有にも活用することができます。

②配付方法を決める

「キャリア・ログ」は、紙媒体でA4両面、A3片面のどちらかで印刷する、デジタル化して配付する等の方法があります。それぞれメリットがありますので、各学校で選択してください。

例えば、小学校低学年の時に書いた字や絵を数年先に見返すことで、「私は、昔はこんな枠に入りきらない字や、読みにくい字を書いていたのか。懐かしいな。今では、しっかりと字を書くことができるようになったな。」等と、手書きの文字や絵だからこそ感じる事ができる自己の成長もあります。児童生徒の発達段階を踏まえ、紙媒体にするか、デジタル版にするか、検討してください。

なお、小学校では紙媒体だったが、中学校になってからデジタル版に変更する場合、紙媒体を撮影する等してデジタル化することも考えられます。



充実のヒント① 具体的な「姿」で示す意義

例えば、自校で育成したい資質・能力が「コミュニケーション能力」であった場合、それは児童生徒がどのような姿になることを目指しているのでしょうか？

- 相手意識をもって話すことができる。
- 筋道を立てて説明し、要点を伝えることができる。
- 相手の話をしっかりと最後まで聞くことができる。
- 相手の問いかけの内容に応じた返答ができる。



どれも「コミュニケーション能力」の一部と捉えることができます。おそらく、教員一人一人の「コミュニケーション能力」の捉えは、少しずつ違うことでしょう。目指す資質・能力の捉えが違うままでは取り組んでしまうと、全員がベクトルを合わせて教育活動を行うことができません。つまり、「コミュニケーション能力」という言葉だけでは、自校で育成したい資質・能力の本質を皆で共有するには不十分ではないか、ということです。

まずは、自校の児童生徒の実態を踏まえ、どのような力を伸ばしていきたいかを教職員間で議論し、焦点化していくことが重要です。その際、なるべく具体的な児童生徒の「姿」で考えることがポイントです。

また、自校で育成したい資質・能力を、児童生徒や保護者等と共有することで、効果的な実践が期待できます。児童生徒にも分かりやすい具体的な「姿」で示すことは、共有という面でも有効となります。例えば、「この学年の生徒の実態を考えると、『グループ協議の場面で、自分と違う考えも大切にして、話し合いをすることができる』姿こそ、特に目指していかなければならない姿だ」等と示すことが求められます。

ぜひ、自校や学年の児童生徒の姿を思い浮かべたり、諸調査の結果等も踏まえたりしながら、「今年度の終わりには、〇〇な姿が全ての児童生徒で見ることができるよう頑張りたいな。」と、校内で議論して、「キャリア・ログ」に示していただきたいと思います。

児童生徒へ配付の際には、「姿」に込められている学校の思いを、担任等がしっかりと語ることも大切です。

2 児童生徒の活動

①年度当初の「なりたい自分」の設定

学校の提示する「身に付けておいてほしい力と姿」、前年度末に考えた「こんな〇年生になりたい」等の振り返りを参考にしながら、児童生徒自ら年度末（中学校においては、中学校卒業時）の自己の目指す姿を考え、設定させます。設定の際、「1週間で1冊以上、本を読む」といった行動目標ではなく、「姿」や「態度」で設定するよう支援してください。

続いて、学期の目標を設定します（小学校第1学年、第2学年は目標を1年単位で設定するため、除く）。学期の目標についても同様に、年度末になりたい自分の姿を踏まえて、自らの目指す姿を設定することが大切です。

充実のヒント② 「なりたい自分」が描けない児童生徒への関わり方

児童生徒は、様々な理由で「なりたい自分」を思い描くことができなかつたり、実態とかけ離れた目標設定となつたりすることがあります。

その際、教職員が大切にすべき考え方は「児童生徒の考えを大切にする」ことです。「なりたい自分」を考えることが発達段階等で難しい場合、例えば、「頑張りたいこと」を書いてよいのではないのでしょうか。実態と比べて、あまりに低い目標設定であった場合は、年度途中の振り返りの際に、修正するなど柔軟に考えさせましょう。

目標設定は、自己理解を深める機会ともなります。自分の最近の生活や、将来に向けた関心から、児童生徒が自分なりの考えをもって「なりたい自分」を設定できるよう、「求める水準に達していない」等と、教職員側のものさしだけで判断することなく、児童生徒に寄り添った声掛けをすることが大切です。



自分の言葉で表現することが難しく、学校が設定した「姿」や、「15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力」から選んだ場合も、児童生徒の選択した結果として、尊重しましょう。

②年度途中における自己の振り返り

1学期末などに機会を設けて、年度途中の「姿」について振り返ります。「学習面」などの項目が示されている学年は、視点ごとに振り返りをします。

その後、振り返りを踏まえて、次の学期の目標を設定します。その際、教職員が大切にしたい考え方は、「目標は変わっても構わない」ということです。前の学期と直接つながっていない場合もありますが、本人の「次は〇〇を頑張ってみたい！」という前向きな気持ちを応援しましょう。また、年度末の目指す姿を修正したい児童生徒があった場合は、自己を省察したということを評価し、「自分のことをしっかり考えて、書き換えたいと思ったのなら大歓迎だよ。（むしろ、書き換えるほうがいいくらいだよ。）」等の、声掛けをすることが大切です。

最後に、ぜひ、学期ごとに教職員からの励ましのメッセージを記入してください。その場では、「すべての児童生徒にそれほど響いているように感じない。」と思われる場面があったとしても、「先生からのメッセージ」が本当に響くのは、数年先に児童生徒が振り返りで改めて見返した時なのかもしれません。大人が当時の自分に対して、氣遣ったり励ましたりしているコメントを見て、自分がかげがえのない大切な存在であることを認識し、温かい気持ちになるのではないのでしょうか。今学期の児童生徒の頑張った場面を思い起こし、読んだ児童生徒が元気になるメッセージをお願いします。それは、教職員にしかできない働きかけであり、教職員にとっても喜びであると思います。

充実のヒント③ 教職員からのメッセージが担う役割



【その1 児童生徒が、自己の経験を肯定的に捉え直すことができる】

(例) 学期の振り返りの記載

先生からのメッセージ

(学校行事)【運動会】

練習では、特にリレーを頑張った。でも、本番でころんで、2人に抜かれた。残念だったです。

運動会、悔しかったね。でも、〇〇さんが当日までの練習で、いつも早く来て準備を手伝ってくれたことを、先生は覚えています。あなたは、今年の運動会で、グンと成長しましたね。

【その2 児童生徒が気付いていない、別の良さや成長を伝える】

(例) 学期の振り返りの記載

先生からのメッセージ

(生活面)

部活で、朝練習の内容を先生任せにせず、他の同級生と相談して決めて、一生懸命やりました。部長として、積極的に頑張ることができたと思います。

さすが部長！でも、私がもっと感心したのは、他の部員の意見を取り入れながら、部員全員が困ったり、嫌な思いをしたりしないかを悩み、練習メニューや朝練習のルールを考えていた姿です。

③年度末の自己の振り返り

年度末に、1年間を振り返ります。中学校第3学年では、義務教育9年間を振り返り、「自分」について省察する機会とします。

振り返る際は、1年間の学びを振り返ることが出来るような資料(行事の振り返りの作文や、教室掲示した個人の資料、定期テストの学習計画表、生徒会活動の資料等)が児童生徒に手元にあるようにしてください。振り返りの際は、学級活動を有効に活用することも考えられます。



充実のヒント④ 振り返りを充実させるために



【その1 学級活動と組み合わせる】

学級活動において、各学期や1年間の振り返りをする場面で活用することが考えられます。例えば、学校独自のワークシート（今学期の振り返りをするためのメモ書きとしての役割を果たす）などを活用し、児童生徒が学級内でそれぞれの振り返りを交流したり、グループ内で相互評価したりした後で、「キャリア・ログ」を記入します。

ただし、「キャリア・ログ」は、児童生徒のプライベートなものです。他の児童生徒が見ると思うと、素直に自分の思いや考えを書くことができなくなる恐れがあります。「キャリア・ログ」の記載内容を児童生徒が互いに見せ合うようなことがないように、意見交流や相互評価の方法を工夫してください。

【その2 キャリア・カウンセリングに活用する】

児童生徒と行うキャリア・カウンセリングの資料とすることが考えられます。「なりたい自分」や振り返りの記述内容を見ながら語り合うことで、キャリア発達を促すことができます。実施の際は、「なりたい自分」を書いた時の気持ちや理由、振り返りの際に考えたことなどを聴き、児童生徒に自分の思いを語らせてください。カウンセリングの過程で、自己の理解が進み、記述内容を書き換えたりすることも考えられます。5ページに示す通り、書き換えることは良いこととして捉え、認める声掛けをしてください。

参考資料として、国立教育政策研究所から「『キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査』パンフレット『語る』『語らせる』『語り合わせる』で変える!キャリア教育—個々のキャリア発達を踏まえた“教師”の働きかけ—」という資料が出ております。ぜひ、御一読いただき、指導に生かしてください。

【資料のURL】

https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career_jittaityousa/career-report_pamphlet3.htm



3 各学年、上級学校への持ち上がり

①各学年の持ち上がり

「キャリア・ログ」は、1年間の歩みのまとめのシートの役割を担っています。将来、自己の歩みを振り返る際、「キャリア・ログ」だけでなく、もっと詳しく見返したいと思う場面もあり得ます。

持ち上げの際は、「キャリア・ログ」を最初のページとして、作文や賞状、写真、部活動の記録、学期ごとの自己目標を書いたような掲示物等、必要と思われる資料を添えて、次の学年に持ち上がらせてください。

②小学校から中学校への持ち上がり

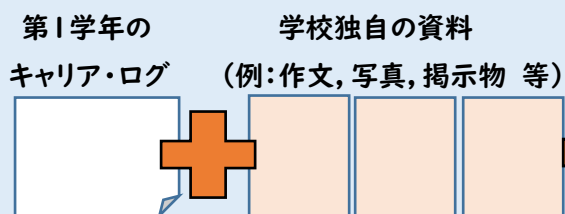
中学校に持ち上がる資料については、中学校でどのような場面で活用できるか、という視点で吟味してください。例えば、小学校で書いた「将来の夢」の作文は中学校第3学年の振り返りの際に有効な資料となります。小学校社会科で作成した「まちたんけん」の資料は、中学校の職場体験活動で使うことが考えられます。

③中学校から高等学校等への持ち上がり

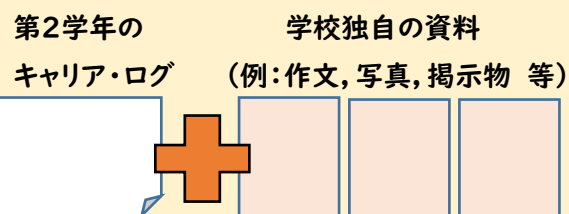
中学校卒業時点において、「キャリア・ログ」以外の資料は家庭に持ち帰らせて、「キャリア・ログ」9枚をファイル等にまとめ、高等学校等へ持ち上がるようにお願いします。他の資料を加えることは妨げませんが、資料を精選するという視点で検討してください。

①各学年の持ち上がり ②小学校から中学校への持ち上がり

第1学年で使用

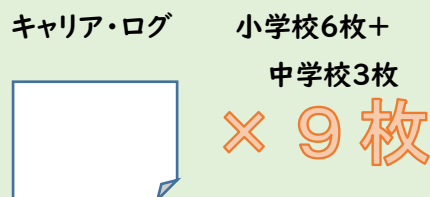


第2学年で使用



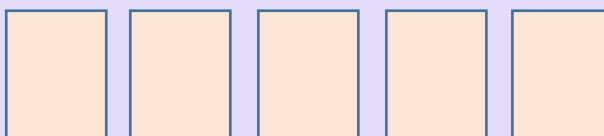
③中学校から高等学校等への持ち上がり

高等学校等へ



各家庭へ

学校独自の資料 (例:作文, 写真, 掲示物 等)



活用に係るQ & A

Q1: これまでの「わたしのキャリアノート」や「キャリア・パスポート」から「キャリア・ログ」に変更する際の、留意点はありますか。

A1: 変更について特別な留意点はありませんが、1年間を通して活用するシートという性格上、年度の最初から御活用ください。

Q2: これまで、自校で作成したポートフォリオを活用していました。「キャリア・ログ」に変更しなければいけませんか。

A2: 必ずしも変更しなければいけないわけではありませんが、「キャリア・ログ」には、キャリア教育を実践していくうえで大切なポイントが盛り込まれています。自校で使用するポートフォリオ資料と「キャリア・ログ」を比較し、自校の資料に十分ではない部分があれば、改良して使用してください。

Q3: 2学期制の学校では、「キャリア・ログ」のシートをそのまま使うことが難しいのですが、どのような工夫が考えられますか。

A3: 2通りの工夫が考えられます。

一つ目は、「1学期」を「夏休みまで」や「4月～7月」、「2学期」を「冬休みまで」や「9月～12月」といった形で言葉を修正する方法です。

二つ目は、セルを結合して、2学期制に合うようにまとめる方法です。各学校で検討し、修正して御活用ください。

Q4: 項目を追加・削除したり、変更したりしても構いませんか。

A4: 上記の「A3」のように、事情に応じて変更することは構いません。

また、各学校でぜひとも振り返らせたい項目があれば、追加することも考えられます。

なお、各シートの項目は「15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力」の育成の視点で考えています。趣旨を御理解いただき、御検討ください。

Q5：保護者等からのメッセージは必須ですか。

A5：教員や保護者からのメッセージを記入する趣旨は、本書P5「②年度途中における自己の振り返り」で示したとおりです。

しかし、家庭の事情で保護者のメッセージをいただくことが難しいこともあります。その場合、保護者以外の家族や周りの大人からのメッセージとすることも考えられます。教員以外にも見守っている大人がいるということを見守っている大人に伝える、という本欄の趣旨を踏まえ、御検討ください。それでも難しいようであれば削除し、例えば教員の記入スペースを大きくすることはあり得ます。信頼できる大人からのメッセージを残すという視点で、記入者は担任を中心に、各校で御検討ください。

なお、年度末の保護者の記入が難しい場合、次年度の家庭訪問や個人面談等の場で活用し、その場で記入していただくという方法も考えられます。記入していただく方法については、柔軟に御検討ください。

Q6：「キャリア・ログ」は、どのように保管すればいいですか。

A6：「キャリア・ログ」は、児童生徒のプライベートな資料（個人情報）であることを踏まえ、鍵のかかるロッカー等で適切に保管してください。特に、教室等のような他の児童生徒が見るリスクの高い場所での保管は推奨しません。

Q7：児童生徒が転出入する場合、転入先の学校は自校の様式に沿って作り直す必要がありますか。

A7：これまでのポートフォリオ資料を作り直す必要はありません。転入以前に作成した資料は、転入先の学校で、継続して使用させてください。なお、年度途中の転入出の場合、転出元の学校と、転入先の学校の2枚を使用することも考えられます。
(指導上の理由により、転入先の学校の様式で作り直すことを否定するものではありません。)

Q8: 高等学校で、「キャリア・ログ」をどのように活用すればよいのですか。

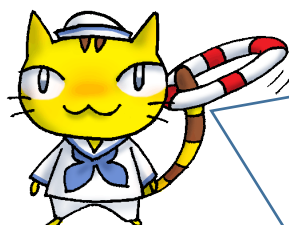
A8: 高等学校では、各学校において、「わたしのキャリアノート～夢のスケッチブック～」や「キャリア・パスポート」を参考とした独自の教材等を活用している実態があることから、高等学校版の「キャリア・ログ～わたしの学びの足あと～」は作成せず、これまでと同様の取扱いとしました。

なお、「キャリア・ログ」は、「身に付けておいてほしい力と姿」を学校が事前に記入することとしているほか、「見通し」と「振り返り」の両者の視点を踏まえた様式とするなど、キャリア教育を実践していく上で大切なポイントが盛り込まれた様式となっていますので、高等学校においても参考にしてください。

Q9: 特別支援学校及び特別支援学級で活用する際に、障害の状態や特性等により、児童生徒自らが活動を記録することが困難な場合は、どうすればよいでしょうか。

A9: 「キャリア・ログ」の目的に沿っているかどうかに留意した上で、児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた取組や適切な内容を個別の教育支援計画や個別の指導計画に記載することをもって、「キャリア・ログ」の活用に代えることも可能です。

(参考:「キャリア・パスポート」に関するQ&Aについて 令和3年2月改訂)



“キャリア・ログ” マスコットキャラクター

「チ～ノちゃん」

①名前の由来

ラテン語で羅針盤を意味する「circino」（シルシーノ又はチルチーノ）から「チ～ノ」と命名。「ー」でなく「～」なのに注意。だって海が好きだから。波が好きだから。

②デザインコンセプト

人生を航海、キャリアを航路になぞらえ、児童生徒が自らのキャリア発達を図る姿を応援する存在として、猫をモチーフに船員服を着たキャラクターをデザインした。体の色は、瀬戸内レモンをイメージした鮮やかなイエローである。

③キャラクター

陽気。好奇心旺盛。宝物は、コンパスと望遠鏡と浮き輪。友達と一緒に暮らすための「理想の島」を探して今日も航海を続けている。船の名前は「希望号」。